



ブレード サーバハードウェア管理

- [ブレード サーバー管理, on page 1](#)
- [ブレード サーバーの削除および解放に関するガイドライン \(2 ページ\)](#)
- [予期しないサーバー電力変更を回避するための推奨事項 \(2 ページ\)](#)
- [ブレード サーバーのブート, on page 4](#)
- [ブレード サーバーのシャットダウン, on page 4](#)
- [ブレード サーバの出荷時のデフォルト設定へのリセット, on page 5](#)
- [ブレード サーバーの電源再投入, on page 7](#)
- [ブレード サーバーのハードリセットの実行, on page 8](#)
- [ブレード サーバーの認識, on page 9](#)
- [シャーシからのブレード サーバーの削除, on page 10](#)
- [ブレード サーバーの解放, on page 10](#)
- [ブレード サーバーのロケータ LED の電源投入, on page 11](#)
- [ブレード サーバーのロケータ LED の電源切断, on page 12](#)
- [ブレード サーバーの CMOS のリセット, on page 13](#)
- [ブレード サーバーの CIMC のリセット, on page 13](#)
- [ブレード サーバーの TPM のクリア \(14 ページ\)](#)
- [ブレード サーバーの BIOS パスワードのリセット \(15 ページ\)](#)
- [ブレード サーバーからの NMI の発行, on page 15](#)
- [ヘルス LED アラーム \(16 ページ\)](#)
- [Smart SSD \(17 ページ\)](#)

ブレード サーバー管理

Cisco UCS Manager によって、Cisco UCS ドメイン内のすべてのブレード サーバーを管理およびモニターできます。電源状態の変更など一部のブレードサーバー管理タスクは、サーバーおよびサービス プロファイルから実行できます。

残りの管理タスクは、サーバー上でのみ実行できます。

電源装置は、シャーシのブレードが2台以下の場合、省電力モードになります。3台目のブレードがシャーシに追加され、完全に検出されると、電源装置は通常のモードに戻ります。

シャーシ内のブレードサーバ スロットが空の場合、そのスロットに関する情報、エラー、および障害が Cisco UCS Manager から提供されます。サーバ ミスマッチ エラーを解決し、そのスロット内のブレードサーバを Cisco UCS Manager で再検出するために、スロットを再認識させることもできます。

ブレードサーバの削除および解放に関するガイドライン

Cisco UCS Manager を使ってブレードサーバを削除するか解放するかを決定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

ブレードサーバの解放

物理的に存在し接続されているブレードサーバを一時的に解放するには、構成から一時的に削除します。サーバ情報の一部は、ブレードサーバが再稼働する場合に備えて、将来使用するために Cisco UCS Manager によって保持されます。

ブレードサーバの削除

削除は、ブレードサーバをシャーシから接続解除して、Cisco UCS Manager から物理的に削除する（取り外す）場合に実行します。ブレードサーバが物理的に存在し、シャーシに接続しているときは、Cisco UCS Manager から削除できません。ブレードサーバの物理的な削除が完了すると、そのブレードサーバの設定を Cisco UCS Manager で削除できます。

削除時、そのブレードサーバへのアクティブリンクは無効化され、すべてのエントリがデータベースから削除されます。サーバは検出時に割り当てられたすべてのサーバプールから自動的に削除されます。



- (注) 自動的に削除されるのは、ディスカバリ中に自動的にサーバプールへ追加されたサーバのみです。サーバプールに手動で追加したサーバは手動で削除する必要があります。

削除したブレードサーバを再び設定に追加するには、再び接続して検出する必要があります。Cisco UCS Manager に再導入したサーバは新規サーバとみなされ、詳細なディスカバリプロセスが実施されます。このため、Cisco UCS Manager によって以前とは異なる新しい ID がサーバに割り当てられることがあります。

予期しないサーバ電力変更を回避するための推奨事項

サーバがサービスプロファイルに関連付けられていない場合は、サーバの物理的な [Power] または [Reset] ボタンなど、サーバの電源状態を変更するために使用可能な手段をすべて使用できます。

サーバがサービス プロファイルに関連付けられているか、サービス プロファイルに割り当てられている場合は、サーバの電源状態の変更は次の方法でのみ行う必要があります。

- Cisco UCS Manager GUI で、サーバに関連付けられたサーバまたはサービス プロファイルの [General] タブに移動し、[Actions] 領域で [Boot Server] または [Shutdown Server] を選択します。
- Cisco UCS Manager CLI で、サーバ、またはサーバに関連付けられたサービス プロファイルに対して **power up** または **power down** コマンドを使用します。



重要 電源がオフになっている関連サーバには、次のオプションのいずれも使用しないでください。

- GUI の [Reset]
- **cycle cycle-immediate** または CLI の **reset hard-reset-immediate**
- サーバの物理的な [Power] または [Reset] ボタン

現在電源がオフになっているサーバに対して、リセットまたはサイクルを実施するか、サーバの物理的な [Power] ボタンを使用すると、サーバの実際の電力状態がサービス プロファイルで必要とされる電源状態の設定と同期しなくなる可能性があります。サーバと Cisco UCS Manager 間の通信が中断したり、サービス プロファイルの設定が変更されると、Cisco UCS Manager によって、必要とされる電源の状態がサービス プロファイルからサーバに適用される場合があります、この結果予期しない電力変化が発生する可能性があります。

電源の同期に関する問題は、次に示すように予期しないサーバの再起動につながる可能性があります。

サービス プロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバの電源状態	通信が中断された後のサーバの電源状態
アップ	電源オフ	[電源オン (Powered On)]
ダウン	電源オン	電源オン (注) 実行中のサーバは、サービス プロファイルに必要とされる電源状態に関係なくシャットダウンされません。

ブレードサーバのブート

Before you begin

ブレードサーバまたはサーバプールにサービスプロファイルに関連付けます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービスプロファイルで組織サービスプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power up	サービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをブートします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次の例は、ServProf34 という名前のサービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをブートし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile* # power up
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

ブレードサーバのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウンシーケンスがトリガーされます。



Note サービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをシャットダウンすると、VIF ダウンアラート F0283 および F0479 が自動的に制限されます。

Before you begin

ブレードサーバまたはサーバプールにサービスプロファイルに関連付けます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービスプロファイルで組織サービスプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power down	サービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをシャットダウンします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、ServProf34 という名前のサービスプロファイルに関連付けられたブレードサーバをシャットダウンし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power down
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

ブレードサーバの出荷時のデフォルト設定へのリセット

ブレードサーバを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブおよび flexflash ドライブに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。



Important ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を実行します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num</i> <i>dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset factory-default [delete-flexflash-storage delete-storage create-initial-storage-volumes]	<p>サーバー設定の工場出荷時の初期状態へのリセットは、次のコマンドオプションを使用して行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • factory-default : ストレージを削除せずに、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットします。 • delete-flexflash-storage : サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、FlexFlash ストレージを削除します。 • delete-storage : サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、すべてのストレージを削除します。 • create-initial-storage-volumes : サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、すべてのディスクを初期状態に設定します。 <p>Important ストレージプロファイルを使用する場合は、create-initial-storage-volumes コマンドオプションを使用しないようにしてください。ストレージプロファイルを使用しているときに初期ボリュームを作成すると、設定エラーが発生する可能性があります。</p>
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

Example

次に、ストレージを削除せずに、サーバーを工場出荷時の初期状態にリセットして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset factory-default
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、FlexFlash ストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-flexflash-storage

UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-storage
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除し、すべてのディスクを初期状態に設定して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-storage create-initial-storage-volumes
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

ブレードサーバの電源再投入

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したブレードサーバでシャードサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # cycle { cycle-immediate cycle-wait }	ブレードサーバの電源を再投入します。 ブレードサーバの電源再投入をただちに開始するには、 cycle-immediate キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後に電源再投入が開始されるようスケジュールするには、 cycle-wait キーワードを使用します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 の電源をただちに再投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # cycle cycle-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ブレードサーバのハードリセットの実行

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムでグレースフルシャットダウンがサポートされていない場合、サーバ電源の再投入が行われます。サーバをリセットする前に Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションの場合、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



- Note** 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[リセット (Reset)] を使用しないでください。
- この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックし、[ブートサーバ (Boot Server)] アクションを選択します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset { hard-reset-immediate hard-reset-wait }	ブレードサーバのハードリセットを実行します。 サーバのハードリセットをただちに開始するには、 hard-reset-immediate キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後にハードリ

	Command or Action	Purpose
		セットが開始されるようスケジュールするには、 hard-reset-wait キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ2のブレードサーバ4のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset hard-reset-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ブレードサーバの認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出するには、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスクバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# acknowledge server <i>chassis-num / server-num</i>	選択されたブレードサーバを認識します。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次の例では、シャーシ2のサーバ4を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# acknowledge server 2/4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

シャーシからのブレードサーバの削除

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# remove server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したブレードサーバを削除します。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 3	シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバハードウェアを取り外します。	サーバハードウェアの取り外し方法については、お使いのシャーシの『 <i>Cisco UCS Hardware Installation Guide</i> 』を参照してください。

Example

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# remove server 2/4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

What to do next

ブレードサーバを物理的に再設置する場合は、Cisco UCS Manager にそのサーバを再検出させるために、スロットの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、[ブレードサーバの認識](#), on page 9 を参照してください。

ブレードサーバの解放

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# decommission server <i>chassis-num / server-num</i>	指定されたブレードサーバを解放します。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次の例では、シャーシ2のブレードサーバ4を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission server 2/4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

ブレードサーバのロケータ LED の電源投入

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ2	UCS-A /chassis/server# enable locator-led [multi-master multi-slave]	ブレードサーバのロケータ LED の電源を投入します。Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバの場合は、次のキーワードを追加できます。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスターノードのみに対して LED を点灯します。 • multi-slave : スレーブノードのみに対して LED を点灯します。
ステップ3	UCS-A /chassis/server# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ2のブレードサーバ4のロケータ LED の電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # enable locator-led
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ2のブレードサーバ7のみでマスターノードのロケータ LED の電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2/7
UCS-A /chassis/server # enable locator-led multi-master
```

```
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ブレードサーバのロケータ LED の電源切断

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-num / server-num	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # disable locator-led [multi-master multi-slave]	ブレードサーバのロケータ LED の電源を切断します。Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバの場合は、次のキーワードを追加できます。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスターノードのみに対して LED を消灯します。 • multi-slave : スレーブノードのみに対して LED を消灯します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 のロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2/4
UCS-A /chassis/server # disable locator-led
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 7 のマスターノードのロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2/7
UCS-A /chassis/server # disable locator-led multi-master
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ブレードサーバの CMOS のリセット

サーバのトラブルシューティングに CMOS のリセットが必要になることがあります。CMOS のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシ サーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-cmos	ブレードサーバの CMOS をリセットします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ2のブレードサーバ4の CMOS をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # reset-cmos
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ブレードサーバの CIMC のリセット

ファームウェアで、サーバのトラブルシューティングに CIMC のリセットが必要になることがあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC をリセットすると、CIMC はブレードサーバの管理コントローラを再起動します。

CIMC をリセットすると、CIMC がリブートするまで、Cisco UCS の電力モニタリング機能が短時間使用不能になります。通常、リセットは 20 秒しかかかりませんが、その間にピーク電力キャップを超える可能性があります。低い電力制限が設定された環境で、設定された電力制限を超えないようにするには、CIMC のリブートまたはアクティブ化を交互に実施することを検討してください。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシ サーバーモードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # scope CIMC	シャーシ サーバー CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server/CIMC # reset	ブレードサーバの CIMC をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server/CIMC # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

Example

次に、シャーシ 2 のブレードサーバ 4 の CIMC をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # scope CIMC
UCS-A /chassis/server/cimc # reset
UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc #
```

ブレードサーバの TPM のクリア

TPM のサポートが含まれている Cisco UCS M4 ブレードサーバおよびラックマウントサーバでのみ、TPM をクリアできます。



注意 TPM のクリアは危険性のある操作です。OS が起動を停止することがあります。また、データを損失する可能性もあります。

始める前に

TPM が有効である必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server [chassis-num/server-num dynamic-uuid]	指定したサーバのサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A# /chassis/server # scope tpm tpm-ID	指定された TPM の org TPM モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A# /chassis/server/tpm # set adminaction clear-config	TPM のクリアを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A# /chassis/server/tpm # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ブレードサーバの TPM をクリアする方法の例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/3
UCS-A# /chassis/server # scope tpm 1
UCS-A# /chassis/server/tpm # set adminaction clear-config
UCS-A#/chassis/server/tpm* # commit-buffer
```

ブレードサーバの BIOS パスワードのリセット

このオプションを使用すると、F2 BIOS 構成プロンプトを使用せずに BIOS パスワードをリセットできます。BIOS パスワードのリセットは、通常のサーバメンテナンには含まれません。BIOS パスワードのリセット後、サーバはすぐに再起動され、新しい BIOS パスワードが更新されます。

手順

-
- ステップ 1** UCS-A# **scope server** *chassis-num / server-num*
指定したシャーシでシャーシサーバモードを開始します。
- ステップ 2** UCS-A /chassis/server # **reset-bios-password**
ブレードサーバの BIOS パスワードをリセットします。
- ステップ 3** UCS-A /chassis/server # **commit-buffer**
トランザクションをシステムの設定にコミットします。
-

ブレードサーバからの NMI の発行

システムの無応答状態が続き、Cisco UCS Managerによって IMC から BIOS またはオペレーティングシステムに NMI (マスク不能割り込み) を発行する必要がある場合には、次の手順を実

行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num</i> <i>dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt	
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

Example

次に、シャーシ 2 のサーバー 4 から NMI を送信し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ヘルス LED アラーム

ブレードヘルス LED は各 Cisco UCS B シリーズブレードサーバの前面にあります。Cisco UCS Manager を使用すると、ブレードヘルス LED の色が緑からオレンジ、または点滅しているオレンジに変わるセンサーの障害を確認できます。

ヘルス LED アラームには次の情報が表示されます。

名前	説明
[Severity] カラム	アラームのシビラティ（重大度）。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • [クリティカル (Critical)] : ブレードヘルス LED がオレンジで点滅します。 • [Minor] : ブレードヘルス LED がオレンジに点灯します。
[Description] カラム	アラームの簡単な説明。
[Sensor ID] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの ID。
[Sensor Name] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの名前。

ヘルス LED ステータスの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / server-id	指定サーバーのシャーシサーバーモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # show health-led expand	選択したサーバーのヘルス LED およびセンサーアラームを表示します。

例

次の例では、シャーシ 1 サーバー 3 のヘルス LED ステータスとセンサーアラームを表示する方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/3
UCS-A /chassis/server # show health-led expand
Health LED:
  Severity: Normal
  Reason:
  Color: Green
  Oper State: On

UCS-A /chassis/server #
```

Smart SSD

Cisco UCS Manager リリース 3.1(3) から、SSD ヘルスのモニターリングがサポートされています。この機能は Smart SSD と呼ばれます。消耗ステータス（日数）、残り耐用期間のパーセンテージなどのプロパティに関する統計情報が表示されます。プロパティごとに最小値、最大値、平均値が記録され、表示されます。この機能では、プロパティのしきい値制限も表示されます。



(注) Smart SSD 機能は、一部の SSD でのみサポートされています。HDD ではサポートされていません。

サポートされる SSD の SATA レンジは次のとおりです。

- Intel
- Samsung
- Micron

サポートされる SSD の SAS レンジは次のとおりです。

- 東芝
- Sandisk
- Samsung
- Micron



- (注)
- SAS SSD では [Power Cycle Count] は使用できません。
 - Smart SSD 機能は M4 サーバー以降でのみサポートされています。

SSD ヘルス統計情報の表示

SSD ヘルス統計情報を表示するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / server-id	指定サーバーのシャーシサーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # show stats	指定したサーバーの SSD ヘルス統計情報を表示します。

例

次に、シャーシ 1 のブレード 3 の SSD ヘルス統計情報を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/3
```

```
UCS-A /chassis/server # show stats
```

```
Ssd Health Stats:
```

```
Time Collected: 2016-12-07T19:35:15.920
```

```
Monitored Object: sys/chassis-1/blade-3/board/storage-SAS-1/ssd-health-stats-1
```

```
Suspect: No
```

```
Id: 1
```

```
Power Cycle Count: 1022
```

```
Power On Hours: 4793
```

```
Percentage Life Left: 92
```

```
Wear Status In Days: 1679
```

```
Thresholded: 0
```

```
Time Collected: 2016-12-07T19:35:38.912
```

```
Monitored Object: sys/chassis-1/blade-3/board/storage-SAS-1/ssd-health-stats-2
```

```
Suspect: No
```

```
Id: 2
```

```
Power Cycle Count: 1017
```

```
Power On Hours: 4270
```

```
Percentage Life Left: 87
```

Wear Status In Days: 1587
Thresholded: 0

Time Collected: 2016-12-07T19:35:15.920
Monitored Object: sys/chassis-1/blade-3/board/storage-SAS-4/ssd-health-stats-1
Suspect: No
Id: 1
Power Cycle Count: 1506
Power On Hours: 5029
Percentage Life Left: 98
Wear Status In Days: 1788
Thresholded: 0

Time Collected: 2016-12-07T19:35:15.920
Monitored Object: sys/chassis-1/blade-3/board/storage-SAS-4/ssd-health-stats-2
Suspect: No
Id: 2
Power Cycle Count: 58
Power On Hours: 4731
Percentage Life Left: 100
Wear Status In Days: 1825
Thresholded: 0

UCS-A /chassis/server #

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。